

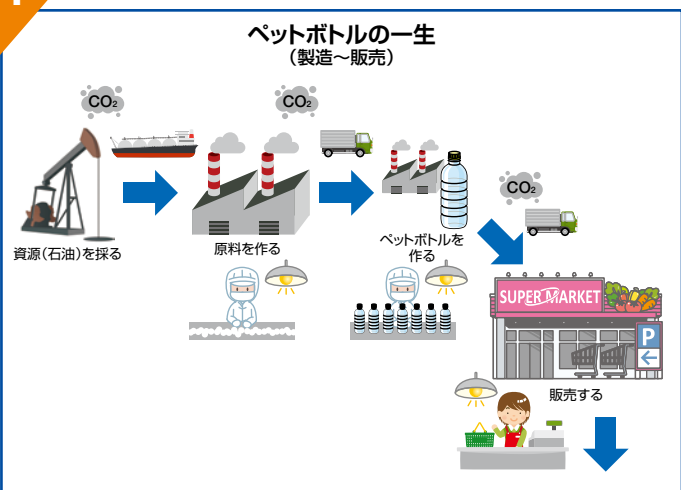


学習のねらい

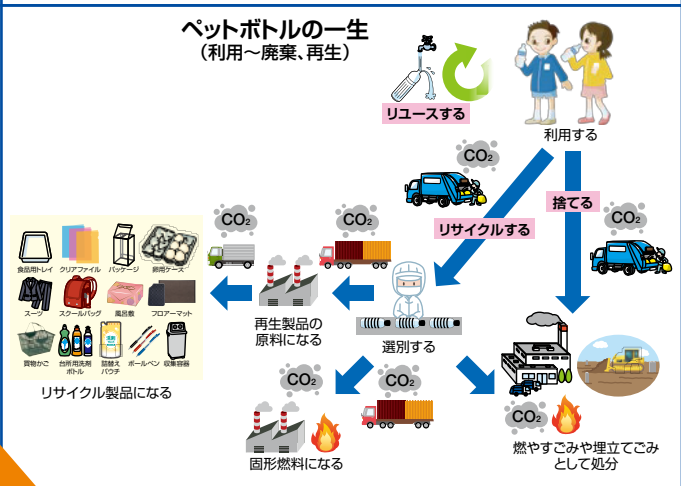
→ものが製造されて処理されるまでに資源やエネルギーなどが使われて、たくさんの二酸化炭素が排出されていることを学び、3Rを実行することで、それらを減らすことができることを理解する。

スライド教材一覧

1 ペットボトルの一生(製造～販売)

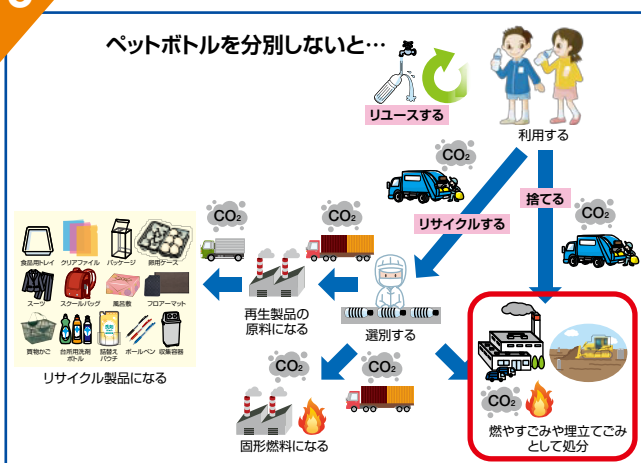


ペットボトルの製造から販売、利用、廃棄、再生などの過程で必要な資源やエネルギー、排出される二酸化炭素について考えます。



2 ペットボトルの一生(利用～廃棄、再生)

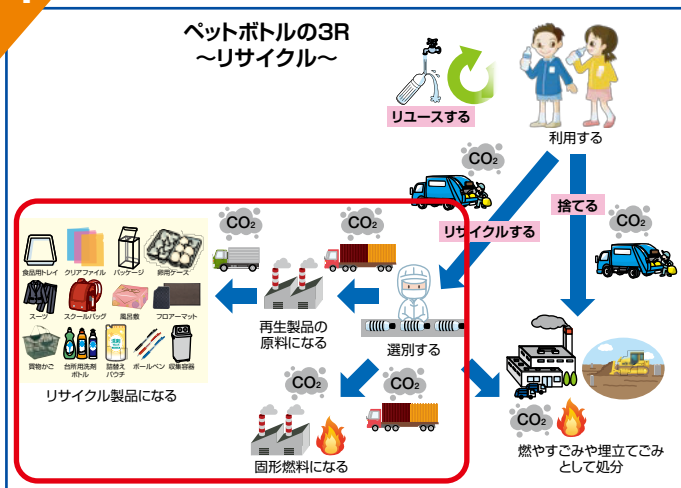
3 ペットボトルを分別しないと…



ペットボトルを分別せずに燃やすごみとして出すと、再び利用されることがなくなり、資源を有効活用できません。

資源やエネルギーを有効に活用するためには3R (リデュース、リユース、リサイクル) の取り組みが必要になります。身近なペットボトルを例にそれぞれの方法について考えます。

4 ペットボトルの3R ～リサイクル～



**リサイクル
(Recycle)**

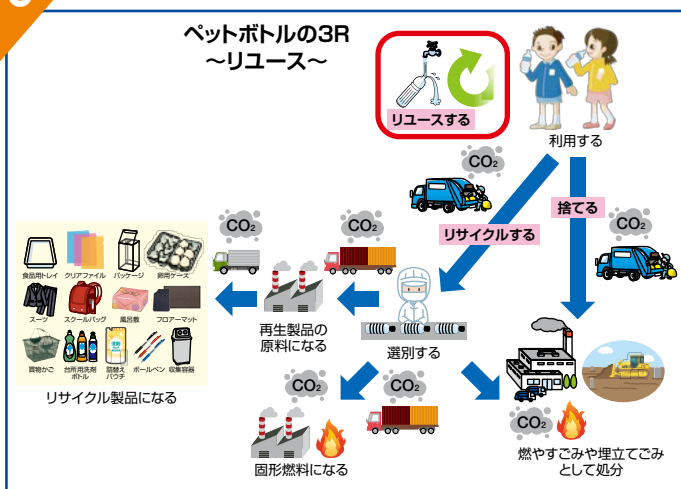
資源として再び利用すること



きちんと分別した場合でも、リサイクルする過程で、資源ごみの収集から選別、リサイクル製品を作るためにたくさんのエネルギーなどが必要です。

教材①「ごみの処理と利用」のリサイクル処理施設のシーンを視聴すると効果的です。

5 ペットボトルの3R ～リユース～



**リユース
(Reuse)**

**使い終わったものを
再び使用すること**



ペットボトルを使い捨てにせず洗って再利用します。ごみの処理に必要なエネルギーなどがなくなることが分かります。ただし、繰り返し使うと汚れや傷で使えなくなります。

6 ペットボトルの3R ～リデュース～



**リデュース
(Reduce)**

ごみの量を減らすこと



ペットボトルの利用を減らして水筒やマイボトルを利用します。ペットボトルの製造から廃棄までの一連の過程で発生するエネルギーなどがなくなることが分かります。ごみを減らすためには、ものを買う時から考えることが大切であることに気づきます。

指導上のポイント

- ➔ 3Rのそれぞれの意味と方法について、身近なものを例にして説明する。
- ➔ 自分たちの生活の仕方、資源やエネルギーを有効活用した循環型の社会が実現できることを意識させる。

●1～6のスライドと、この教員指導用資料のデータは付属のCDディスクに収録しています。